

外国人材の受け入れや海外出張の多い事業所様へ

～留意すべき感染症と健康観察について～

最近の在留外国人の増加に伴い、全国的に外国人結核患者が増加しているほか、海外で流行中の麻しん（はしか）が旅行者等を介して国内に持ち込まれる例が増えています。

結核や麻しんなど、感染から発病までの期間（潜伏期）が長い感染症では、感染していても入国時に症状が無い場合が多いので、入国後に発病する可能性を念頭に置いて健康観察を行う必要があります。

以下に、その際の留意点をまとめましたので、ご参考いただければ幸いです。

＜結核＞

潜伏期：成人では6か月～2年以内が多い（但し、発病率は10%程度）

症状：2週間以上続く咳・たん、発熱、倦怠感、重症化すると呼吸困難など

治療法：抗結核薬の内服（6～9か月程度・医療費の公費負担制度あり）

対応策：定期健診で胸部レントゲン写真を必ず撮影する、有症状時の医療機関受診

＜麻しん＞

潜伏期：10日～14日

症状：38℃以上の高熱、全身の発疹、鼻水、目やに、咳、下痢、腹痛など

治療法：本人へは解熱剤等の対症療法

対応策：有症状時の医療機関受診

接触者には、感染後72時間以内の緊急ワクチン（発病予防目的）

※その他の留意点

- ①結核・麻しんは、外国人材に加え、海外出張後の職員にも同様の健康観察が必要です。但し、麻しんでは、これまで2回の予防接種を確実に受けていることが母子健康手帳等で確認できた場合は、発病のリスクが大幅に少なくなります。
- ②結核・麻しんとも、潜伏期の期間を中心に健康観察を行いましょう。この期間中に上記の症状が出た場合は、受診を希望する医療機関へ事前に電話を入れ、いつ、どこの国から入国（帰国）したか、症状の経過等を伝えたと上で受診しましょう。
- ③医療機関受診の際には、公共交通機関やタクシーなどの利用は避けましょう。
- ④周囲への感染拡大防止のために、咳症状が出たら必ず「マスク」をつけましょう。

☞裏面もご参照ください

●お問い合わせ先●

村山保健所 保健企画課 感染症予防担当 Tel 023-627-1105

最上保健所 地域保健福祉課 感染症予防・健康増進担当 Tel 0233-29-1268

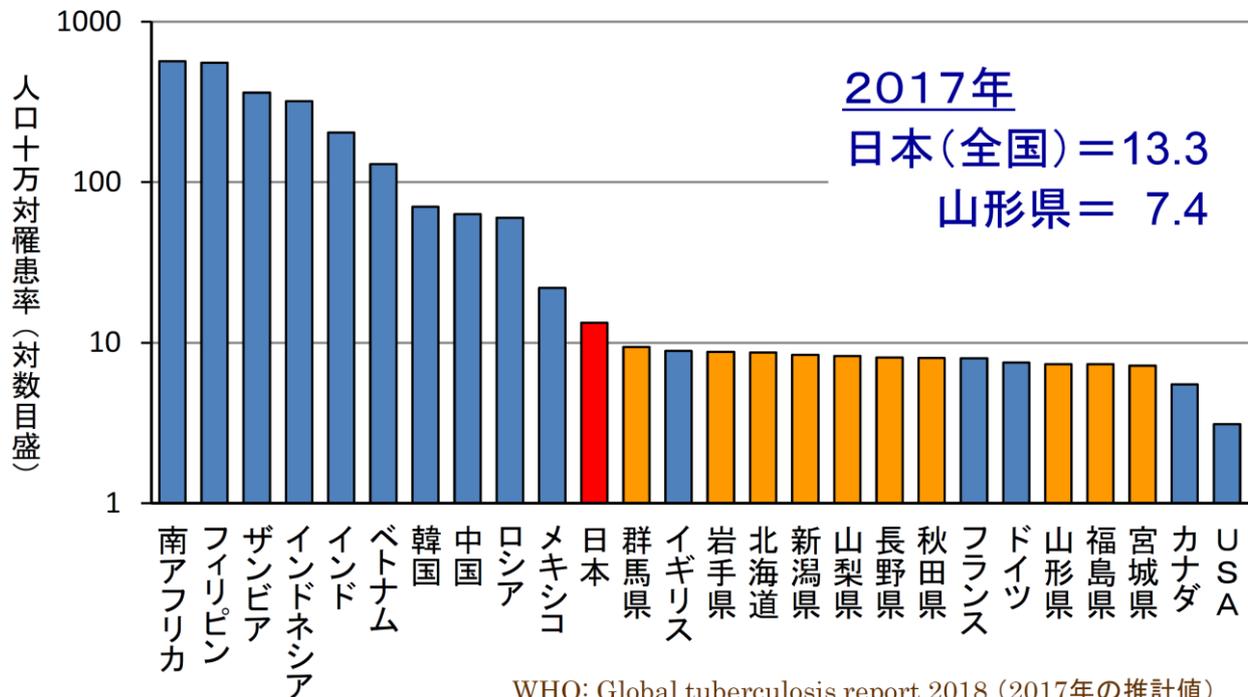
置賜保健所 生活衛生課 感染症予防担当 Tel 0238-22-3002

庄内保健所 保健企画課 感染症対策担当 Tel 0235-66-4920

※ 平日の午前8時30分から午後5時15分までに、御連絡をお願いします。

- 東南アジアでは、フィリピン・インドネシア・インド・ベトナムなどで結核患者の発生が多い。

世界各国の結核発生状況（推計値含む）



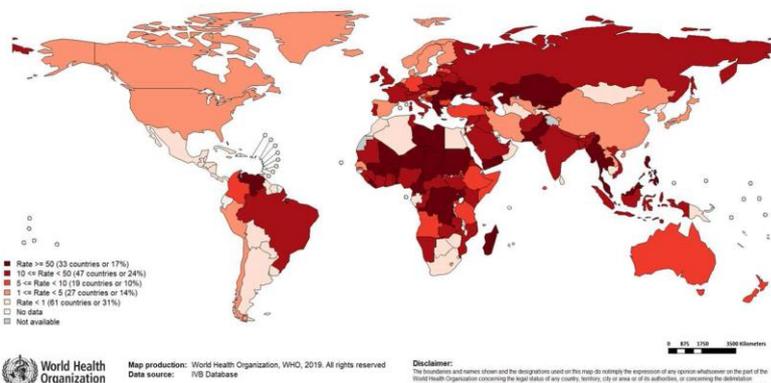
WHO: Global tuberculosis report 2018 (2017年の推計値)
日本は 厚生労働省「結核登録者情報調査年報」

- 麻疹患者が多発している地域（2017年12月～2018年11月）は下記のとおり。

世界各国の麻疹発生状況

(2018年3月～2019年2月) WHOまとめ

報告患者数 上位10か国		
国名	患者数	人口10万対罹患率
ウクライナ	72408	1629.39
マダガスカル	69720	2800.61
インド	60641	45.8
パキスタン	28164	145.77
フィリピン	19358	187.36
イエメン	10566	383.05
ブラジル	10318	49.69
ナイジェリア	7481	40.22
タイ	6213	90.22
コンゴ	5864	74.48



東南アジアでは、インド、パキスタン、フィリピン、タイが上位10か国に入っている。